クイントゥス・クルティウス［・ルフス］著『マケドニアのアレクサンドロス大王の事蹟』（1559）トンマーゾ・ポルカッキ訳
ジョリート・デ・フェラーリ社刊

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 晃一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22430

研究用基礎資料紹介

クイントゥス・クルティウス［・ルフス］著『マケドニアのアレクサンドロス大王の事蹟』(1559) トンマーゾ・ポルカッキ訳 ジョリート・デ・フェラーリ社刊

Q. Curtio *De' fatti di Alessandro Magno rè de' Macedoni* (1559) tradotto per M. Tomaso Porcacchi Giolito de' Ferrari

狩野　晃一*

本書の特徴

アレクサンドロス大王（356-323 BCE）ならびにその人生を伝える歴史書や物語の類いは古今東西よく知られ、親しまれてきた。古くはシケリア人ディオドロス抜粋編集による『歴史文庫』（第 17 巻）に始まり、ポンペ

*かのう・こういち／明治大学　農学部　准教授

イウス・トログス『ピリッポスの歴史』（第11巻および第12巻）、プルタルコス『対比列伝（英雄伝）』、クルティウス・ルフス『アレクサンドロス大王伝』、アッリアノス『アレクサンドロス大王東征記』、そして伝カリステネス『アレクサンドロス大王物語』など枚挙にいとまがない。とりわけここで紹介する本学所蔵書『マケドニアのアレクサンドロス大王の事蹟』の原典であるクルティウス・ルフスによる『アレクサンドロス大王伝』Quintus Curtius Rufus, *Historiae Alexandri Magni* は中世およびルネサンス期に人気を博した。この書物は、12-13世紀ごろシャティヨンのゴーティエ Gautier de Chatillon が中世ラテン語で書いた『アレクサンドロス大王の歌』*Alexandreis* の主要な典拠となり、(1)また各種俗語による数々のヴァージョンを生み出す源泉となるなど、アレクサンダー・ロマンスなるジャンルを形成するほどであった。

本訳書はトンマーゾ・ポルカッキ Tommaso Porcacchi によるクルティウス・ルフス『アレクサンドロス大王伝』のイタリア語訳である。(2)訳者のポルカッキは才能に溢れるイタリア・ルネサンス後期の人文主義者であり、コジモ・デ・メディチ Cosimo de' Medici から庇護を受けた人物で、かの有名な『世界の著名な島々』*Le Isole Più Famose del Mondo*（1572）の著者としても知られている。出版はヴェネツィアのジョリート・デ・フェラーリ社のガブリエーレ Gabriele Giolito de' Ferrari による。(3)「読者への序文」TOMASO PORCACCHI / A' LETTORI.（p. vi）で本書を10巻にわけ

（1）　フランス語名シャティヨンのゴーティエ、ラテン語名ガルテールス・デ・カステリオーネ Galterus de Castelione

（2）　イタリア語への翻訳は主に以下に列挙する通りである。最初のイタリア語への翻訳はピエル・カンディード・デチェンブリオ Pier Candido Decembrio によって1438年になされた。2番目の翻訳が本論で扱うポルカッキによるものである。ポルカッキはデチェンブリオの翻訳は参照していないようだ。近代に入ると、ピエトロ・マンツィ Pietro Manzi による1840年の翻訳がある。現代イタリア語への翻訳はラテン語のテクストと併置された形で、Atkinson（編）Antelami（訳）による版（1998，2009）と Giovanni Porta（編訳）の版（2005年）がある。

　クルティウス作品の1767年までのイタリア語訳に関する詳細な情報は Argelati（1767: 285-90）を参照。

たことを謝罪している。クルティウス・ルフスの原典は10巻に分かれているのだが、謝罪の理由は、ポルカッキ訳が出版される直前に出版されたヘンリクス・グラレアヌスによる校訂版（Basilea, 1556）が12巻としており、それを踏襲しなかったということによる。(4)

タイトルページの記述(5)から、本書はゴンザーガ家のフェデリコ２世（1500–1540）に献じたことがわかる。木版画 woodcut には、ジョリート社の印「不死鳥」が中央に描かれており、その上部には“DE LA MIA MORTE / ETERNA / VITA I VIVO”の文字が、また不死鳥の下部には

（３）『イタリア・ルネサンス辞典』によればジョリート社は、1536年にジョヴァンニ・ジョリート Giovanni Giolito によって創業された。1541年に息子のガブリエーレ・ジョリート（1578年没）が出版に携わり始める。同社は1599年に活動を停止するが、それまでに約1050の版を上梓した。このジョリート社の最大の特徴は、イタリアにおける最も重要な俗語出版を行った印刷所であるということだ。1541年から1560年まで、ガブリエーレは、対話、劇、書簡集、ノヴェッラ、歴史、詩、宗教文学など多岐にわたる俗語作品を出版した。この俗語文学普及の貢献は、古典文学普及におけるアルドゥス（注10を参照）の成果にも比較される。（pp. 243–44）

（４） Ma perche dopo che la mia traduttione è stata stampata, e io pur m’era ridotto nella Città, ho veduto quante belle fatiche habbia impiegato sopra Q. Curtio l’Eccellentissimo Arrigo Clareano; il quale l’ha diuiso in dodici libri, & purgato da molti errori con le sue dottissime annotationi: però m’è parso scusarmi con voi, affine che non mi diate carico, o di poco diligente, o di troppo arrogante; e insieme darvi gli argomenti di ciascun libro, accioche voi habbiate la divisione orinata, & sappiate trovare il cominciame*n*to di tutti. Et ragione perche essi debbano esser piu tosto Dodici, che Dieci libri è questa. (p. vi)

（５） Q. CVRTIO / DE’ FATTI D’ALESSANDRO / MAGNO, RE DE’ MACEDONI, / TORADOTTO PER M. TOMASO PORCACCHI, / con alune Annotationi, dichiarationi, & auuertimenti, & con / una lettra d’ALESSANDRO ad Aristotele, del sito dell’In- / dia, & con la Tauola copiosissima delle cose notabili. / ALL’ILLVSTRISS. ET MOLTO REVE- / RENDO SIGNORE, IL S. FEDERIGO GONZAGA. / CON PRIVILEGIO. / IN VENEGIA APPRESSO GABRIEL / GIOLITO DE’ FERRARI, / MDLVIIII.（クイントゥス・クルティウス著『マケドニア王アレクサンドロス大王の事蹟について』トンマーゾ・ポルカッキ訳。注解、解釈、注意書き。アレクサンドロス大王からアリストテレスへインドから送った書簡。重要事項目次。この上なく著名にして最も尊き主君フェデリゴ・ゴンザーガ２世に捧げる。）

SEMPER EADEM / G / F / G /（G/F/G は Gabriele Giolito (de') Ferrari のこと）とある。

本書の大きさは、4 つ折版（Quarto：約 218mm × 150mm）、collation は *–**** 8，***** 4，A–P 8，Q 6 [72] 249，[3（空白）] ページ、Q 6 の最後の空白葉で終わっている。文字はローマン体とイタリック体を使用、木版画（印刷業者の意匠）がタイトルページと Q5r にある。木版の装飾文字が各巻の最初に見られる。カバーはヴェラム（羊皮紙）であり、背表紙には Q. Curtio / Fatti / d' / Ales / Sandro / Magno / Vine[gia] / MDLVIIII / Ferrari とある。また遊び紙の 1 枚目にはかつての所有者のものと思われる名前があるが、判読が難しい。(6) 名前の下には異なる字体で "libro rarissimo"（貴重本）の書き込みが見える。さらに 247 ページ下方内側に鉛筆で小さく 12894 の数字が書き込まれているが、これが何を指しているのかは不明である。奥付には、ジョリート社のトレードマークである炎から舞い上がる不死鳥の姿が見える。(7)

ポルカッキ訳の構成は以下の通りである。まず、「フェデリゴ・ゴンザーガ 2 世への言葉」（*ii–）と「読者へ」があり、その後は原典各巻の要旨が続く（第 1 巻と第 2 巻についてはポルカッキが史料から得た情報でまとめている。これは原典の要旨であるため第 12 巻までがまとめれられている）。それに続き、ポルカッキによるテクストの扱いに関する説明、各巻への注釈が掲載されている。そして訂正一覧、非常に細かく分けられた目次があり、ようやく本文となる。原典で欠落している本文の第 1 巻と第 2 巻は補充という形を取っている。本文にはイタリック体が用いられている。『事

（6） "Franco M^a B[ ]asa"（"Franco" は "Francesco" か）と読めるが、はっきりしたことは分からない。

（7） 奥付の記述は以下に示す通りである。

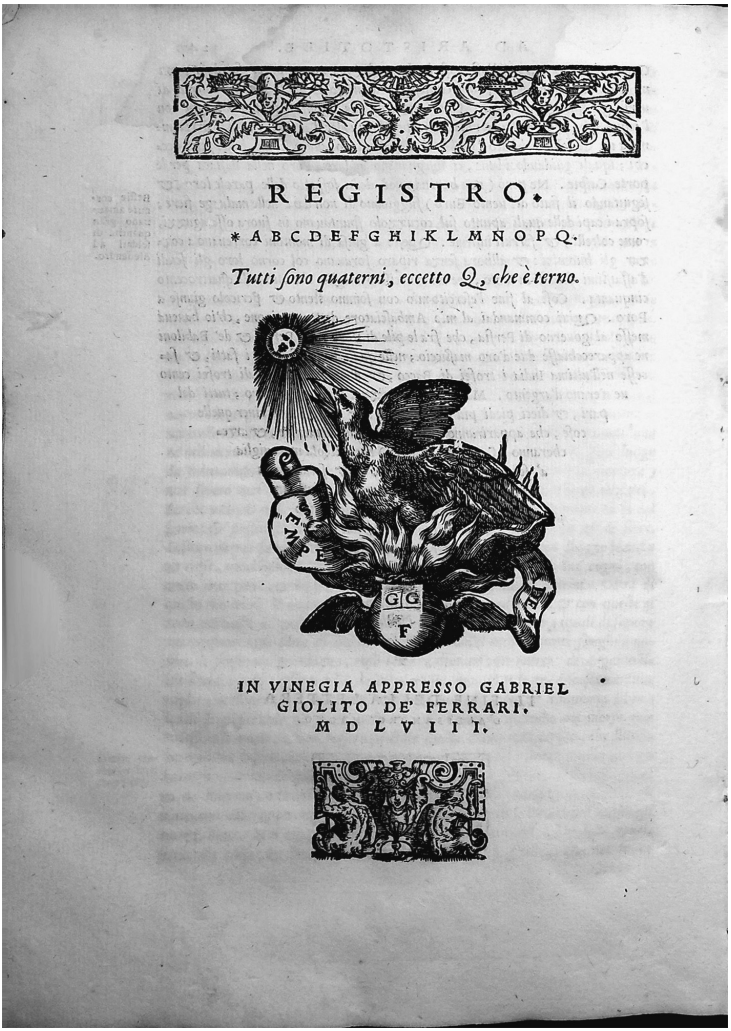
"REGISTRO. / * A B C D E F G H I K L M N O P Q. / Tutti sono quaterni, eccetto Q, che è terno. / SEMPER EADEM / G G F / IN VINEGIA APPRESSO GABRIEL / GIOLITO DE' FERRARI. / MDLVIII."

これによれば、出版年は 1558 年ということになるが、表紙では 1559 年（MDLIIII）となっている。これはおそらく 1558 年の第 1 版を 1559 年に刷りなおしたものであると思われる。つまり内容は第 1 版のままであるが、印刷は 1559 年であったということである。

績』の本文は234ページで終わり、235ページからはアレクサンドロス大王がインドから師であるアリストテレスに宛てた『書簡』が始まる（249ページまで）。最後に奥付で印刷部分は終わっている。

Q. CVRTIO
DE' FATTI D'ALESSANDRO
MAGNO, RE DE' MACEDONI,
TRADOTTO PER M. TOMASO PORCACCHI,
con alcune Annotationi, dichiarationi, & auuertimenti, & con
una lettera d'ALESSANDRO ad Aristotele, del sito dell'India, & con la Tauola copiosissima delle cose notabili.
ALL'ILLVSTRISS. ET MOLTO REVERENDO SIGNORE, IL S. FEDERIGO GONZAGA.
CON PRIVILEGIO.
ETERNA
DELLA MIA MORTE
VITA
IN VINEGIA APPRESSO GABRIEL GIOLITO DE' FERRARI,
M D L V I I I I.

（本学所蔵本　タイトルページ）



REGISTRO.

* A B C D E F G H I K L M N O P Q.

Tutti ſono quaterni, eccetto Q, che è terno.

IN VINEGIA APPRESSO GABRIEL GIOLITO DE' FERRARI. M D L V I I I.

（本学所蔵本　奥付）

原典と翻訳

ラテン語原典『アレクサンドロス大王伝』はクイントゥス・ルフスによっ

て書かれたとされるが、著者が一体どのような人物であったのかについては未だ詳しいことはわからないままである。古代においてこの作品に関する言及がほぼ皆無であることから、著者の活躍した時期や執筆時期などを知ることはできない。作品中の記述、例えばパクス・ローマーナへの言及（ローマ帝政期初期か：第4巻第4章21）やパルティアの繁栄（トラヤヌス帝のパルティア遠征（114-116年）以前か：第6巻第2章12）などから紀元1世紀中葉（クラウディウス帝の治世のころ）に書かれたと推測できる。ルフスの『アレクサンドロス大王伝』は全10巻からなるが、現存する写本には第1巻および第2巻が欠損している。(8)

ポルカッキ訳にはどのような特色があるのか。上記のように、クルティウスが書いたとされる『アレクサンドロス大王伝』は、伝わっている写本において第1巻および第2巻が完全に欠損している。(9)しかしポルカッキはその欠落部分を入念な調査によって、復元までいかなくとも、要旨argomentoを組み立てることに成功している。彼が参照することができた写本や印刷本も、おそらく第1巻と第2巻が欠けていた。ポルカッキが底本としたのは、Vindelium de Spira(10)によって1470年ごろに出版された最初の刊本editio princepsをベースにしたテクストであろう。この校訂本からポルカッキ訳が出版されるまで約90年ほどの期間があり、この間に古典学者らによる校訂や補記を経て、失われた箇所およびテクスト全体の完成が試みられた。(11)それまでの本文研究のおかげでポルカッキはより良いテクストを利用することができたのは事実であるが、彼の翻訳者としての能力は、翻訳に値する原典校訂本の選択、力強く簡潔なイタリア語での正確な翻訳にいかんなく発揮されている。

（8） 谷・村上訳『アレクサンドロス大王伝』pp. 472-75.

（9） 現存する15世紀の写本は93篇にのぼる。この数字が示すところは、クイントゥス・ルフスが15世紀において十分に古典作家としての地位を確立していたという事実である。

(10) ドイツから1467年ごろヴェネツィアにやって来た印刷業者。ドイツ語名Wendelin de Speier。テレンティウスの喜劇、キケローの作品などを出版した。またイタリアの優れた写本に用いられた書体をもとにした美しいローマン体が特徴。このeditio princepsには第1、2巻はなく、第3巻から始まっている。

さて、そのポルカッキの翻訳者としての、また校訂者としての能力はいかに獲得されたのだろうか。少し彼の人生をたどってみよう。[12] トンマーゾ・ポルカッキは1532年12月21日、カスティリオーネ・アレティーノ（現フィオレンティーノ）に生まれた。父はベルナルディーノ・ディ・フランチェスコ Bernardino di Francesco といい、靴直しを生業としていた。母はマッダレーナ・グリッランディ Maddalena Grillandi。1551年9月6日付のカスティリオーネの司法長官に宛てた請願書の中でピーザの学校に寄宿生として受け入れてくれるよう依頼しているが、残念ながら受理されなかった。そのため読み書き等の教育は地元のアウグスティヌス修道会の修道院で聖職者から受けたと考えられる。1556年5月13日、ポルカッキはフィレンツェにいたロドヴィコ・ドメニキ Lodovico Domenichi[13]へ手紙を送る。手紙は地元の知識人をアカデミアでの研究に招きたいことと、また法学者のマリオ・コッティ Mario Cotti と司祭長ジョヴァン・バッティスタ・ティティ Giovan Battista Titi の地方滞在中に会合へ誘う内容であった。そしてドメニキは会合に参加したようだ。ここ

---

(11)　少なくとも7人の著名な学者が関与したと言われている。Berzunza（1941: 136）によればその7人の学者とは、バルトロメウス・メルラ Bartholomaeus Merula（14世紀末-15世紀初頭のマントヴァの書記官で文献学者）をはじめ、ルーカス・ロビア Lucas Robia（フィレンツェの彫刻家ルカ・デッラ・ロッビア Luca della Robbia のことか？）、アントニウス・フランキヌス Antoninus Francinus（アントニオ・フランチーニ Antonio Francini: モンテヴァルキ（アレッツォ）に1480年ごろ生まれる。ギリシャ語およびラテン語の校正、ギリシャ語教師、翻訳者）、ヘンリクス・グラレアヌス Henricus Glareanus（エンリコ・グラレアーノ Enrico / Arrigo Glareano: 1488年スイスのグラローナの近くのモッリスに生まれる。人文主義者、音楽理論家。1563年フライブルグに没す。本名はヘンリッヒ・ロリスまたはロリティ Henrich Loris / Loriti）、デシデリウス・エラスムス Desiderius Erasmus（1466年ロッテルダムに生まれる。人文主義者。1536年バジレアに没す）、アルドゥス・マヌテウィス Aldus Manutius（1450年頃-1515年。ヴェネツィアで活躍した印刷業者。アルド印刷所の創始者）、そしてクリストフォルス・ブルーノ Christophorus Bruno である。最後にあげたブルーノが auctor supplementorum を著し、ポルカッキの翻訳にはその成果が組み込まれているという。

(12)　ポルカッキの生涯については主にオンライン版 *Dizionario Biografico* の “Tommaso Porcacchi” の項を参照した。

でさまざまな知識人らとの知遇を得たものと考えられる。ラテン語やギリシア語に通じる若きポルカッキが詩人として著しい成功を収めたのが、*De la rime di diversi eccelentissimi autori nuovamente raccolte libro primo*（1556）であった。ここには彼の 41 編のソネットが収められている。そしてついに 1557 年、ヴェネツィアの出版業者ガブリエーレ・ジョリートと仕事をすることになる。ジョリートととはドメニキを通して知り合った。1558 年にクルティウス著『アレクサンドロス大王の事績』の翻訳がでる。ちなみにここで紹介しているものは 1559 年にでたものである。この翻訳はドメニキの勧めによるものであった。これのように見てみると、優れた学者らとの交流が人文主義者としてのポルカッキを鍛え、とりわけ彼の人生においてある意味で道筋をつけたドメニキの存在は大きなものであった。以降、『世界の著名な島々』（1572）を含む著作・翻訳を精力的に続け、1585 年に没した。

最後に、この小さな紹介文によって本邦におけるクルティウス『アレクサンドロス大王伝』、訳者ポルカッキ、イタリア・ルネサンスの出版事情に対する理解が深まれば幸いである。そして本学所蔵版が有効活用されることを望む。

参考文献

Argelati, Filippo. *Biblioteca degli Volgarizzatori, o sia Notizia dall'Opere Volgarizzate d'Autori, che Scrissero in Lingue Morte Prima del Secolo XV, tomo I*. Milano: Federico Agnelli, 1767.

Berzunza, Julio. "Notes on the Three Italian Versions of Quintus Curtius Rufus' *Historiae Alexandri Magni*", Italica, Vol. 18. No. 3 (1941), pp. 133-137.

（13） Lodovico Domenichi は 1515 年にピアチェンツァで生まれ、1564 年にピーザで亡くなった著述家。彼は法学、言語学に通じ、詩人でもり、ヴェネツィアのジョリート社やフィレンツェの出版社トレンティーノ Torrentino の校正にも携わっていた。彼はコジモ・デ・メディチにも仕えており、さらにアカデミア・デッリ・オルトラーニを設立した人物として知られる。

Cosenza, Mario Emilio, *Biographical and Bibliographical Dictionary of the Italian Humanists and of the World of Classical Scholarship in Italy, 1300-180. 6 vols*. Massachusetts: G. K. Hall, 1962.

"Porcacchi, Tommaso" in *Dizionario Biografico, Treccani.it*. (https://www.treccani. it / enciclopedia / tommaso-porcacchi_%28Dizionario-Biografico%29/) Accessed on 7th Oct. 2021.

ピーター・バーク（森田義之，柴野均訳）『イタリア・ルネサンスの文化と社会』東京：岩波書店，1992 年.

ヘイル，J. R.（中森義宗 監訳）『イタリア・ルネサンス辞典』東京：東信堂，2003 年.

ペディグリー，アンドルー（桑木野幸司訳）『印刷という革命—ルネサンスの本と日常生活』東京：白水社，2017 年.

EDIT16（*Censimento nazionale delle edizioni italiane del XVI secolo*）http://edit16.iccu.sbn.it/web_iccu/ihome.htm（16 世紀イタリアの印刷物に関する詳細なデータベース）

『アレクサンドロス大王の事績』エディション、翻訳等

Curzio Rufo. *Storie di Alessandro Magno, 2 volumi*, a cura di John Atkinson e traduzione di Tristano Gargiulo. Fondazione Lorenzo Valla / Arnorldo Mondadori Editore, 2009, 2013.

————————. *Sotrie di Alessandro Magno*, a cura di Giovanni Porta. Milano: BUR Rizzoli, 2016.

Quintus Curtius. *History of Alexander, vol. I (Books 1-5)*. Translated by John C. Rolfe. LOEB Classical Library 368. Harvard University Press, 1946.

————————. *History of Alexander, vol. II (Books 6-10)*. Translated by John C. Rolfe. LOEB Classical Library 369. Harvard University Press, 1946.

アッリアノス（大牟田章訳）『アレクサンドロス大王東征伝』上・下巻，岩波文庫，2001 年.

ガルテールス・デ・カステリオーネ（瀬谷幸男訳）『中世ラテン叙事詩　ア

レクサンドロス大王の歌』東京：南雲堂フェニックス，2005 年.
クルティウス・ルフス（谷栄一郎・上村健二訳）『アレクサンドロス大王伝』（西洋古典叢書 L011），京都：京都大学出版，2003 年.

（※本資料は 2019 年度研究用基礎資料として購入された。）